

○環境大臣賞

1. 団体賞

★スタービレッジ^{あちゆうきやくそくしんきょうぎかい}阿智誘客促進協議会（長野県阿智村）

平成18年に環境省が当時行っていた「全国星空継続観察事業」の一般参加団体による写真撮影結果において、夜空の明るさが星の観測に適していた場所（夏期観察）第1位となった結果をもとに、「星」をキーワードに、地域が一丸となってナイトツアーの企画や特別講演会、観察会をおこなっている。

さまざまなメディアにも取り上げられ、「星の村」として集客や認知が広がり、誘客実績は、年々増加しているほか、星空を通じて広域的な交流が活発になった。

さらに、星空が魅力的な地域資源であること、美しい星空が見える環境を後世に受け継ごうという意識などの地域愛が生まれ、住民の環境保全意識の浸透につながったほか、星空ツアースタッフとしての雇用促進や定住促進にもつながり、郷土の環境を活かした地域おこしに成功している。

2. 個人賞

☆河本^{かわもと} 玲子^{れいこ}氏（長野県南牧村）

国立天文台野辺山宇宙電波観測所の近くに位置するホテルのグラウンドで、平成19年より宿泊者向けに星空鑑賞会を毎日開催し、年間約1万人の参加者に星空の魅力と感動を与えている。

天候等で鑑賞できない場合は、屋内のプラネタリウムで鑑賞会を実施するなど、10年間毎日継続して活動を行い、大気環境の重要性を広げる活動を行っている。

さらに、独学で星空案内人の資格を取得し知識を深め、野辺山の街灯や看板の明かりの影響を受けない、漆黒の夜空の大切さやその知識を伝えるなどの普及啓発活動を展開している。

近年では、「野辺山星の会」の会長を務め、多方面で星空の素晴らしさを広める活動を行っているほか、地域の小中学校へ出向き、星空観察会などの出前講座を行うなど、離れつつある科学や天文学に興味を抱いてもらえるよう、環境教育にも力を入れている。

○全国協議会会長賞

1. 団体賞

★^{さくしてんたいかんそくしせつ}佐久市天体観測施設 うすだスタードーム（長野県佐久市）

大気環境保全に対する高い意識により、平成8年から平成24年まで長期にわたり「全国星空継続観察」へ継続的にデータを提供し、また、天体観測活動を通じて、一般の方々への普及啓発活動に積極的に取り組んでいる。

平成17年に佐久市で開催された第17回「星空の街・あおぞらの街」全国大会では、その活動の結果を報告した。

公開天文台（うすだスタードーム）において、開館日は20年間毎日観望会を開き、天文イベントに合わせた観望会や講演会、関連施設を巡るバスツアーなどを企画し、大気環境保全の啓蒙活動を展開しているほか、近年は「信州佐久星空案内人の会」（星のソムリエ）の養成事業を始め、地域の天文指導者の育成・天文ファンの獲得に努めているなど、一般市民が関心を持ち得る活動を継続して行っている。

2. 個人賞

☆^{よしだ いほう}吉田 偉峰氏（岩手県盛岡市）

一戸町観光天文台において平成21年度から8年間継続して全国星空継続観察を行っており、参加者が観測しやすい独自の観測報告シートを作成するなど、長く指導的な役割を担っている。

観光天文台の星空解説のほか、街中星空観察会も行い、多くの地域市民が星空に触れる機会を創出し、さらに過剰な照明が環境に影響を与える「光害」についての啓発活動も行っている。

盛岡星まつりの企画運営や岩手県内各地の関連団体とのネットワークを構築し、広域的に星空調査を行うなど、地域の大気環境を守る活動も行っている。

星空観察活動の成果を、環境教育活動、セミナーを通じて地域に発信しているほか、岩手県の環境アドバイザーや地球温暖化防止活動推進員を務めるなど、星空環境問題のみならず、大気保全、地球温暖化問題などの分野において普及啓発活動を展開している。